加茂湖の水辺価値向上のための実践的活動

日本大学理工学部海洋建築工学科親水工学研究室
特任教授　畔柳　昭雄
修士２年　高橋　大樹
学部４年　岡田　祐成

1. はじめに

わが国の日本海沿岸では、舟を収納するための舟小屋が多数立地され、地域特有の景観を創出してきた。2005 年に重要伝統的建造物群保存地区に選定された京都府伊根町では、海沿いに舟小屋が連なることで歴史的景観を生み出しており、現在においても舟小屋の保全・活用が図られている。こうした動向の中、新潟県佐渡市の東部に位置する加茂湖に着目すると、牡蠣加工場が併設された特有の舟小屋が湖畔に多数立地している状況を確認できる。しかし昨今では、少子高齢化に伴う漁業従事者数の減少により、舟小屋の未利用化が進んできている。

そこで、加茂湖特有の建築物として舟小屋を再評価し、維持管理・保全・活用方法を提案することを目的とする。

2. 活動概要

写真 1 に模型写真、図 1 に平面図、2 に断面図、写真 2, 3, 4 に舟小屋のイメージパース、写真 5 に塗装作業風景を示す。本活動は、地域住民と協働により、加茂湖沿いに立地する舟小屋のリノベーションを実施した。活動期間は、2020 年 4 月から 6 月まで図面及び模型作成、7 月 7〜9 日に加茂湖舟小屋の内壁塗装を行い、舟小屋所有者と親水工学研究

写真 1　模型写真

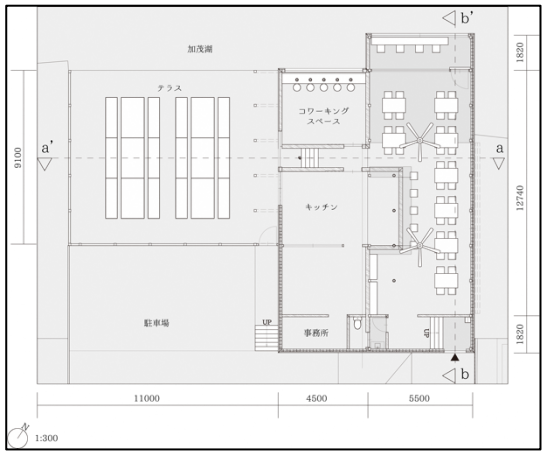

図 1　平面図

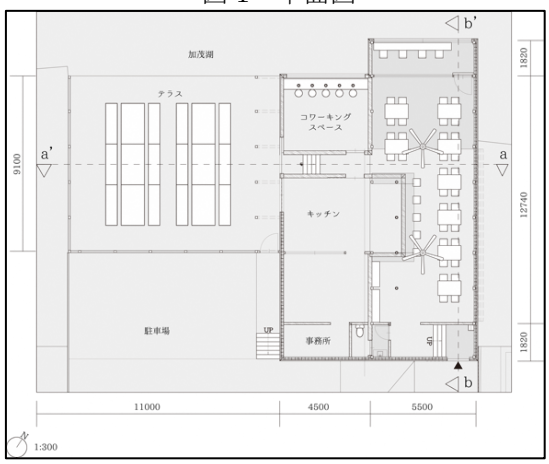

図 1　断面図

室の学生５名が作業に従事した。

3.　実施内容

3.1 準備期間（～7 月 7 日）

舟小屋のリノベーションに向けた事前の打ち合わせは主にメールやオンライン会議ツールを使用し、意匠のイメージ共有や当日までの日程調整等を行った。舟小屋の意匠イメージを共有する際には、図 1,2 の舟小屋の平面図と断面図、写真 2,3,4 の外観および内観のイメージパースを作成し、それらを用いることで円滑に打ち合わせが可能となった。

3.2 活動期間（7 月 7 日～9 日）

学生が現地到着後、舟小屋所有者と内壁塗装に関する全体作業行程、スケジュールについて確認を取った。7 月 7 日から、それぞれ各担当箇所に分かれて内壁の塗装作業を開始した。まず、塗装作業に慣れるために壁の面積が大きい箇所から塗装作業を始め、徐々に細かい内壁の塗り作業を実施した。

4.　今後の展望及び課題

今回の活動から加茂湖の有するポテンシャルを最大限に活かすことができる舟小屋のリノベーションはさらに注目されていくと考えられる。加茂湖を一望できる舟小屋は現在多数確認できており、未利用となっている舟小屋を今後、今回のリノベーションで実施した飲食店だけでなく、物販や宿泊、水上アクティビティ関連施設等に利活用することで加茂湖の賑わいづくりの一助になり得ると考える。今後は、今回活動を行った舟小屋をより加茂湖と一体感のある施設に変貌する活動を展開していきたいと考えている。

写真 2　イメージパース

写真 3　イメージパース

写真 4　イメージパース

写真 5　塗装作業風景